介護支援専門員更新研修を終えて ②

前回、介護支援専門員更新研修の概要をご説明させていただきましたが、
今回は少し掘り下げて説明させていただきます。

全体での講義形式で①**介護保険制度及び地域包括ケアシステムの今後の展開**について学びました。

兵庫県の要支援・要介護者が２０２０年で、約３２万人が２０４０年には約４３万人に増加し、生産年齢人口は逆に２０２０年で、約３１７．５万人が２０４０年には約２４７．２万人に減少する予測となっています。

介護保険料は兵庫県で２０００年度は平均２，９０３円だったものが、現在２０２３年度では平均６，００１円と２倍以上に上昇し今後も上昇していくことが予想されます。現在、第８期介護保険事業計画の中にあり、少子高齢化においても介護保険制度が維持できるようなシステムを構築しようとしています。

■第８期介護保険事業計画での介護支援専門員の取り組みとして

a.多職種連携を踏まえ、研修に医療系科目の取入れ
b.障害福祉制度、障害者マネジメントに関する研修実施
c.地域ケア会議等を通じたケアマネジメント支援、質の向上
d.個別支援から地域課題を見出す視点を養う研修
e.ケアプラン点検を通じた適正化推進
f.研修におけるICTの活用

今回のこの更新研修では、d.　個別支援から地域課題を見出す視点を養う研修として事前に提出した事例研究をもとに分野ごとにグループに分かれて演習を実施しました。

課題とケアマネジャーとしての取り組み

②リハビリテーション及び福祉用具の活用に関する事例
③看取り等における看護サービスの活用に関する事例
④認知症に関する事例
⑤入退院時等における医療との連携に関する研修
⑥家族への支援の視点が必要な事例
⑦社会資源の活用に向けた関係機関との連携に関する事例
⑧状態に応じた多様なサービス（地域密着型サービス、施設サービス等）の活用に関する事例

②～⑧における課題について各グループ４人ずつに分かれて演習を実施しました。事前に各ケアマネジャーが作成した事例から１つを選び、事例提供者はケアプランやモニタリング状況を振り返りながらその問題状況を他のメンバーに提示しました。なぜその問題が解決できなかったのかメンバーと一緒に多角的な視点で問題の背景にある要因を探りました。

そして問題の背景にある要因をメンバーそれぞれの経験と共に照らしあわせながら探る過程で、ここで扱う支援事例に加え、地域に存在する他のケースでも同様の理由で解決が困難な問題が存在していなかったか思考を広げていきました。何があれば利用者(及び同じような困難に直面する人)の生活は改善され住み慣れた地域で暮らし続けることが可能となるのか(手段的目標)。そのためにケアマネジャーは何をしなければならないのか(手段を達成するための具体的な実践)。ケアマネジャーとしての取り組み課題を明確にしていきました。

ケアマネジャーとして、どのような役割を果たすか

グループで行ったこの事例研究は「メンバーと共に個別ケースをめぐる問題状況を課題化し、さらにはケアマネジャーとしての具体的な取り組み課題へと言語化すること」と整理できます。この更新研修における事例研究のプロセスでは「個別ケースの支援に向けてどのように対応するか」という領域に留まらず、「普遍化(一般化)」をキーワードにしながら、「ケアマネジャー(専門職)として地域においてどのような役割を果たすか」という視野の広がりをもつことができる研修となりました。

最後に、介護に対して悩み事、相談等があれば当院のケアマネジャーにご相談ください。

診療予約は こちらから

電話予約：0799-62-5566（診療時間内）
ネット予約：https://ssc6.doctorqube.com/soyama-clinic/（24時間対応）
＊携帯電話からは右のＱＲコードからでも予約できます＊